

## 「宜野湾ちゅら水会」からの普天間第二小学校グラウンド 土壌調査結果に対する市長コメント

先日(9月5日)、市民団体(宜野湾ちゅら水会)からの普天間第二小学校グラウンドにおいてサンプリングした土壌の分析結果をいただきました。

市としては、普天間第二小学校の子供たちの安心、安全な教育環境を最優先に対応してまいりたいと考えております。

行政としての調査に関しましては、現在、国内での環境基準値や分析方法が確立されていないことから、サンプリング方法を含め、調査手法等につきましては、国、県のご助言も受けながら、検討してまいりたいと考えております。

なお、空気中に飛散した土ぼこり等を児童が吸い込んだことによる健康への影響につきましては、様々な文献等から試算した結果、極めて少ないものと考えております。しかし、ご不安に思われる方々もいらっしゃるかと推察することから、当面の措置として、こまめに散水を行い、土ぼこりが舞うのを極力抑える等の措置を講じてまいります。

本市と致しましては、米軍基地内への立ち入り調査や、米軍による基地内の調査と対策が実現できるよう県と連携して、粘り強く求めてまいります。

なお、今回の調査結果を受け、参考文献等に基づき子ども一日当りの土(飛散など)の最大経口摂取量の値が 0.34ng/day(ナノグラム パー デイ)と試算されたことから、耐容一日摂取量(300ng/day)を大きく下回っておりますので、その影響は極めて小さいものと考えております。(資料参照)

わが国においては、土壌に含まれている PFOS 等有機フッ素化合物に対する規制値、基準値等が確立されておられませんので、確固たる安全性に関しましては、申し上げることは出来ませんが、これからも、国、県とも連携をして、子どもたちの安全、安心な教育環境を最優先に、対策を講じてまいりたいと考えております。